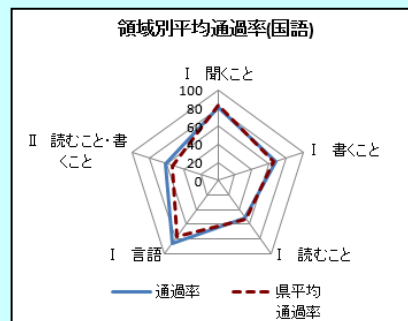
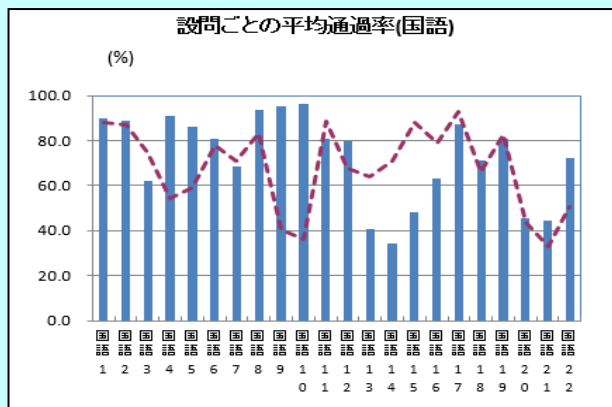


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.7%, 県 68.0%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 国語科の結果は、タイプⅠは75.4%、タイプⅡは60.8%の通過率で、通過率が30%未満の児童は3.8%となっている。タイプⅠの書くこと、言語、タイプⅡについては、通過率が県平均を上回っているが、タイプⅠの聞くこと、読むことについては県平均を下回っており、課題である。
- 昨年度は、情報の取り出し・理由や事例を挙げた記述、中心となる語や文の把握、グラフを基に、分かったことを的確に書くことに課題があった。キーワードに印を付けながら資料の読み取りを指導したり、三段落や四段落で書く指導を繰り返したりした。今年度、タイプⅠの書くことの領域、タイプⅡの記述の設問で、県平均通過率を上回ることができたが、タイプⅡでの通過率が低く、課題である。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

◎叙述を関連付けて読んだり (通過率 40.5%), 叙述を基にして登場人物の心情を想像し、記述したりすること (通過率 34.2%) に課題がある。

【課題2】

◎複数の資料から目的や条件に応じて必要な情報を取り出し、それらを関連付けて書くことに課題がある。(通過率 44.3%)
 ◇アドバイスをもとに文章を書くなどの目的や意図に応じ、必要な内容を整理して文章を書くことに課題がある。(通過率 36.7%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

◎叙述を基に人物の心情を想像させ、友達と考えを交流することで多様な考え方に触れさせていく。また、朝の読書タイムの時間などを活用して本に親しむ機会を多くする。

【課題2】

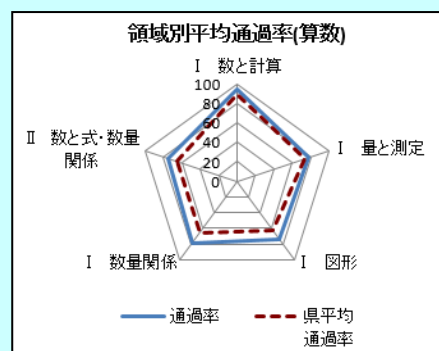
◎資料から必要な情報を読み取るために、キーワードに線を引きながら読む練習をする。そして、キーワードを関連付けて書くようにする。
 ◇メモを書いて、メモをもとに文章を書くなどの機会を多く設定する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3・4年生 単元末テスト			全学年 熊野町学力調査	4年生 H29「基礎・基本」	3・4・5年生 学年末テスト
目標値		70.0%			70.0%	70.0%	80.0%
実施後数値		92.3%・87.8%					

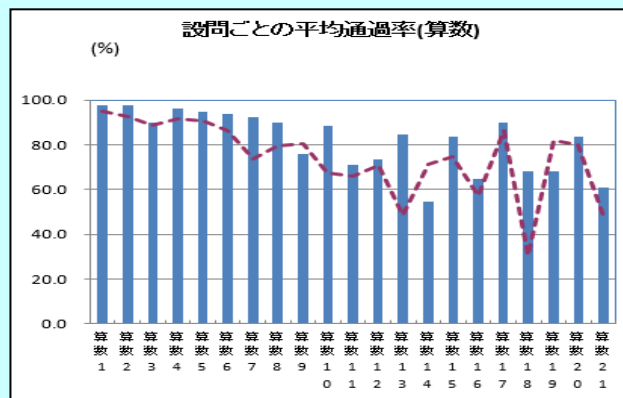
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3・5年生 単元末テスト		4年生 単元末テスト		全学年 熊野町学力調査	4年生 H29「基礎・基本」	3・4・5年生 学年末テスト
目標値	70.0%		70.0%		70.0%	70.0%	80.0%
実施後数値	83.6%・92%		83.3%				

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.9%, 県 74.3%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 算数科の結果は、タイプⅠは84.3%、タイプⅡは74.2%の通過率となっており、県の平均と比べても高い。また、通過率30%未満の児童は1.2%である。このことから、全体として、基本的・基礎的な学習内容は定着していると考えられる。
- 昨年度は、数と計算と図形の領域で課題が見られた。そこで、計算の見積もりなど日常生活において類似問題の経験をさせたり、図形の性質に基づいて作図や分別をする活動を多く取り入れたりに取り組んだ。その結果として、目的に応じた計算結果の見積もりに関する設問の通過率は89.9%、三角形の作図に関する設問の通過率は83.5%と向上した。しかし、平行四辺形の判断に関する設問の通過率は54.4%であり、引き続き課題と捉え取り組む。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

◎作図に用いられている図形(平行四辺形)の定義・性質について理解し、関連付けて考えることができていない。(通過率54.4%)

【課題2】

◇基準量・比較量・割合の関係を解釈し、判断することに課題がある。与えられた情報から、基準量・比較量・割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書くことができていない。(通過率11.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

◎作図の操作とその意味を考えさせることで、作図は図形の定義や性質に基づいていることを理解させる。

【課題2】

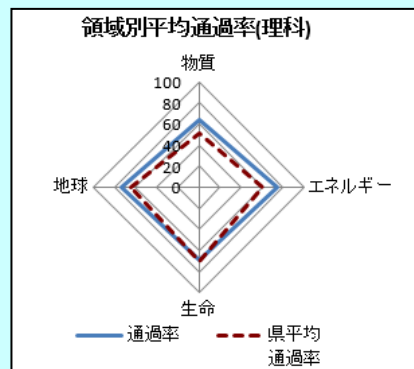
◇日常生活の事象について、割合を活用して数学的に解釈したり、事柄を適切に判断しその理由を数学的に表現したりする学習を充実させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	4年生 単元末テスト				全学年 熊野町学力調査	4年生 H29「基礎・基本」	3・4・5年生 学年末テスト
目標値	70.0%				70.0%	70.0%	80.0%
実施後数値	80.8%						

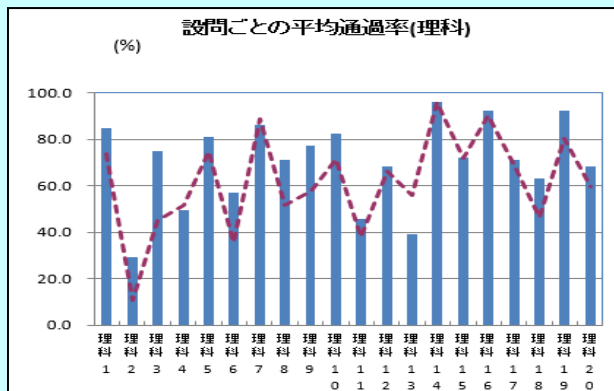
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 単元末テスト		全学年 熊野町学力調査	5年生 H29「全国学力・学習状況調査」	5年生 学年末テスト
目標値			70.0%		70.0%	60.0%	80.0%
実施後数値			84%				

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.1%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○理科の結果は、タイプⅠは76.1%、タイプⅡは62.7%の通過率となっている。県平均と比べると、基礎的・基本的な学習内容は全体として定着していると考えられる。しかし、通過率30%未満の児童が5%いる。また、依然として記述する問題の通過率が低く、領域では、「生命」が課題である。

○昨年度は、「物質」の領域に課題があり、「エネルギー」の領域での磁石の性質と電気の性質を複合的に考える問題の通過率が低かった。そこで、実験やおもちゃ作りなどを多く取り入れ、複合的に考える場の設定を行うようにした。また、実験や観察を行う際には、条件統一に気を付けて実験方法を考えさせるなど、段階をおって考える力を育てるようにした。本年度県平均と比べ、「物質」の領域では11.7%高く、「エネルギー」の領域では13.7%高くなっている。

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

【課題1】

◎実験の際の適切な検証方法の選択に課題がある。空気鉄砲の前玉が飛ぶ理由を検証する実験道具を正しく選択することができず、(ア)と誤って答えている児童が67.1%いる。(通過率29.1%)

【課題2】

◎生物の領域で、虫眼鏡の使い方(通過率45.6%)、虫がすみかにしている場所(通過率39.2%)について理解していない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

◎実験や観察を行う場合には、目的や条件に気を付けて実験方法を考えさせたり、実験後に結果から分かることや新たに疑問に思うことを話し合わせたりすることを大切にする。また、空気の様子などを図や絵、言葉を使って表現する学習を仕組む。

【課題2】

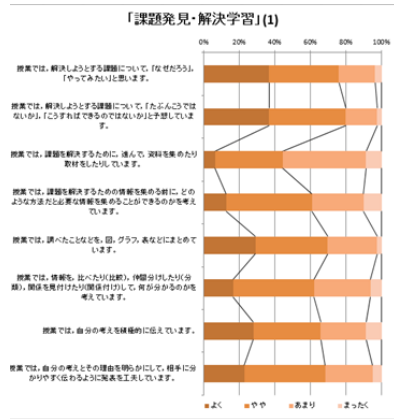
◎生き物の観察などを行うときには、できるだけ多くの種類を観察し、それぞれの特徴とともに共通の特徴や生態について確認するなど、一般化していくようにする。また、観察の機会を多くするとともに観察の際の道具の使用方法についても丁寧に指導していく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		4年生 単元末テスト			全学年 熊野町学力調査	4年生 H29「基礎・基本」	4・5年生 学年末テスト
目標値		70.0%			70.0%	70.0%	80.0%
実施後数値		90.8%					

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3・4年生 単元末テスト				全学年 熊野町学力調査	4年生 H29「基礎・基本」	3・4・5年生 学年末テスト
目標値	70.0%				70.0%	70.0%	80.0%
実施後数値	75.3%・90.8%						

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

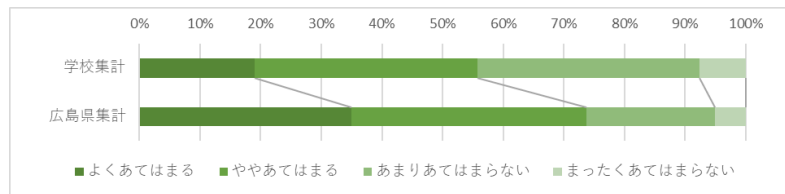
(1) 生活・学習



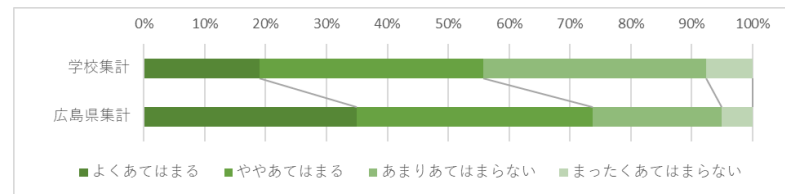
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
◎授業では、課題を解決するために進んで資料を集めたり、取材をしたりしていると答えた児童は44.3%だった。	◎どの教科でも、調べ学習や取材活動をする場面を設ける。児童が主体的に学習に取り組めるように、資料を集める方法や取材の仕方などを具体的に示し、学習の見通しをもたせる。	高	60%以上	児童アンケート	2月		

(2) 教科

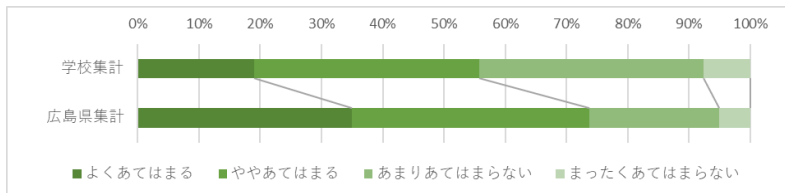
国語の授業では、伝えたいことの手をしっかりとらせ、組み立てを考えて文章を書いています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	◎国語の授業の中で、伝えたいことの手をしっかりとらせ、組み立てを考えて文章を書いていると答えた児童は55.7%だった。	◎国語科の「書く」単元の教材研究を充実させる。文章を書かせる前に、文章の趣旨を考えさせ、伝えるために構成をどうすればよいかをワークシートなどを利用して考えさせる。その後、組み立てを考えてから文章を書くようにさせる。	高	70%以上	児童アンケート	2月		
算数	◎算数の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明していると答えた児童は58.2%だった。	◎本時の課題を解決する際には、既習事項を確認したり、児童が自分の考えをもてるように時間を確保したりする。その後、ペアやグループトークなどを取り入れる中で、理由を挙げて話す習慣を身に付けさせる。	高	70%以上	児童アンケート	2月		
理科	◎理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていると答えた児童は57.0%だった。	◎観察や実験を行う際、児童が予想を立てたり、考察をしたりする時間を確保し、グループ内でも発表するようにする。その後、話し合った内容を全体の場で発表するなど、自分の言葉で話す機会を多く設定する。	高	70%以上	児童アンケート	2月		